

＜地域福祉において住民が力を発揮するためにはどのような方策、仕組みが必要か＞

(活動への入り口)

- 社会教育が福祉活動の入り口になる。
- (退職者の場合)リタイア直後(1年間)の準備行動が活動の方向性を決める。
- 定年退職前の教育も必要。
- (退職者の場合)リタイア直後の準備行動では、行政発行の広報媒体(市報、区報等)が活用されている。
- (退職者の場合)探索行動を始めるきっかけには、広報媒体や奥さんからの促しなどがあるようだが、探索行動を始めるための仕掛けには何があるのか考える必要がある。
- (退職者の場合)退職した途端に地域で迷子になるような人をつくらないことこそが大事。戦後につくり上げたライフコースを解体するところをまずやる必要がある。地域に出ていくときも、戻るという姿勢ではなく、初めて参加させていただくのだという姿勢が必要。
- 頼まれて、誘われて参加したという人が圧倒的に多い。活動の中に入ってもらうようにするには相当アナログ的な方法が必要なのではないか。

(力を発揮する方策、仕組み)

- 自身の自己実現につながる参加でないといけない。
- 超大物世話焼きの後ろにいて仕掛ける人が欲しい。
- 講座等から次へつなげる働きかけをするボランティアコーディネーターの役割が重要。
- コーディネーターの専門性強化を国が支援する必要。
- 入り口のところでは、自分の興味・関心の方が強くそこだけで終わってしまうケースも非常に多いので、活動の中で社会的な意味づけを示していくことが必要。